

環境活動レポート



ムラサキ貝



ワカメ

写真提供：OPO

環境と化学のコーディネーター

ソーダニッカ株式会社

本社：東京

支店：札幌 仙台 名古屋 大阪 広島 高松 福岡

グループ会社：ソーダニッカビジネスサポート株式会社

目 次

1. ご挨拶	1
2. 当社の概要	2
3. 事業内容	2
4. 当社の環境管理組織	3
5. エコアクション 21 認証登録の対象範囲	4
6. 環境方針	5
7. 環境目標(2017 年度、2018 年度)	6
8. 2016 年度環境目標達成状況と中期環境目標への対応	7
9. 2016 年度の環境活動	
(1) 取組み実績結果	8
(2) 電力消費量の削減	1 1
大野ケミカルセンターにおける太陽光発電量	
(3) 廃棄物排出量の削減	1 1
(4) 化学物質の管理	1 2
1) P R T R 法の S D S 制度 対象化学物質	
2) ケミカルセンター(物流基地)取扱の化学物質	
3) ケミカルセンターの防災訓練	
(5) 営業部門の環境貢献活動	1 4
1) 太陽光発電パネルの販売取組み	
2) 環境関連商品の販売取組み	
(6) 地域の環境保全活動(2016 年度)	1 8
(7) その他の環境活動(エコ検定の受検)	1 9
(8) 環境経営マニュアルの主な変更点(2017 年度版)	2 0
1 0. 環境関連法規等の遵守状況(過去 3 年)	2 1
1 1. 代表者による全体の評価と見直し	2 2
1 2. エコアクションの取組みの経緯	2 3
1 3. 表紙の写真について	2 3

1. ご挨拶

現在、世界的に環境問題がクローズアップされており、環境を無視して会社経営は考えられません。

「環境と化学をコーディネートし、社会に貢献する」を標榜する当社としては、地域社会を含めた全ての皆様の信頼を得るために、環境保全に力を入れて活動していく所存です。



ソーダニッカ株式会社は、1947 年の設立以来、ソーダ製品をはじめ無機・有機薬品、石油化学製品、合成樹脂製品などを取扱う化学品専門商社として長年にわたり国内産業界の発展をサポートしてまいりました。

全国をカバーするネットワークの構築により、仕入先、販売先から厚い信頼をいただく一方、か性ソーダなどの主力製品の安定供給をより確かなものにする目的から全国 4 ヶ所にケミカルセンターを設けております。

化学品は人々の生活を支えるあらゆる産業と深く関わっており、当社は基礎原料から、時代の変化とともに産み出される多機能な新素材まで幅広い商品を取扱っております。

常に最新の情報を先取りし、積極的な提案や商品・サービスを提供すること、また環境対策にも積極的に取り組むことで社会に貢献することが、当社に課せられた使命だと受け止めております。

21 世紀に入り経済のグローバル化は一段と進み、それに呼応するように国内の産業構造も大きく変化してきました。一方、人々の生活を豊かにしてきた文化は、天然資源を枯渇させ、二酸化炭素排出による地球温暖化という負の課題を派生させ、また国内では東日本大震災に起因した原発問題から将来のエネルギー問題が大きな課題となっております。

このような時代背景の中で、当社は国内では輸入品を含めた化学製品の販売をコア事業とし、太陽光発電ビジネスを中心とした環境関連製品を戦略商品に位置付けて成長を目指します。また巨大化するアジア市場を視野に中国・アセアン地域を中心とした営業展開を進めてまいります。

近年、社会の多様化とともに企業の社会的責任が問われるようになりました。当社は、コンプライアンス経営と環境配慮活動を積極的に推進することにより、あらゆるステークホルダーの信頼に応えていく方針です。

代表取締役社長 長洲 崇彦

2. 当社の概要

企業名 : ソーダニッカ株式会社

ホームページ : <http://www.sodanikka.co.jp>

本社所在地 : 東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 5F

代表者 : 代表取締役社長 長洲 崇彦

創立 : 1947 年 4 月 1 日

資本金 : 37 億 6,250 万円(2017 年 4 月 1 日現在)

環境責任者 : 執行役員 総務部門長 増澤 茂

環境担当者 : 総務人事部長 高橋 誠

連絡先 : TEL(代) : 03-3245-1802 FAX:03-3241-3709

3. 事業内容

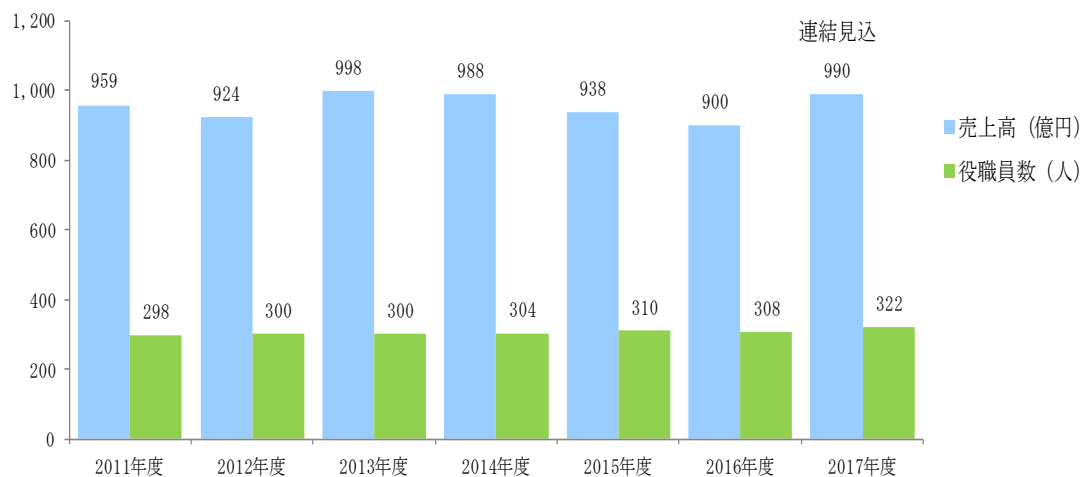
化学工業薬品・石油化学製品・電子材料・合成樹脂及び加工製品・各種機器容器等の売買及びこれに伴う製造、化学工業設備・同機器の設計製作及び施工。

また主力化学品については、国内 4 ヶ所に物流拠点としてケミカルセンターを有し、輸送の合理化及び取引先への安定供給を目的に、サプライチェーン・ネットワークを構築。

事業規模(売上高と役職員数の推移)(2017 年 3 月 31 日現在)

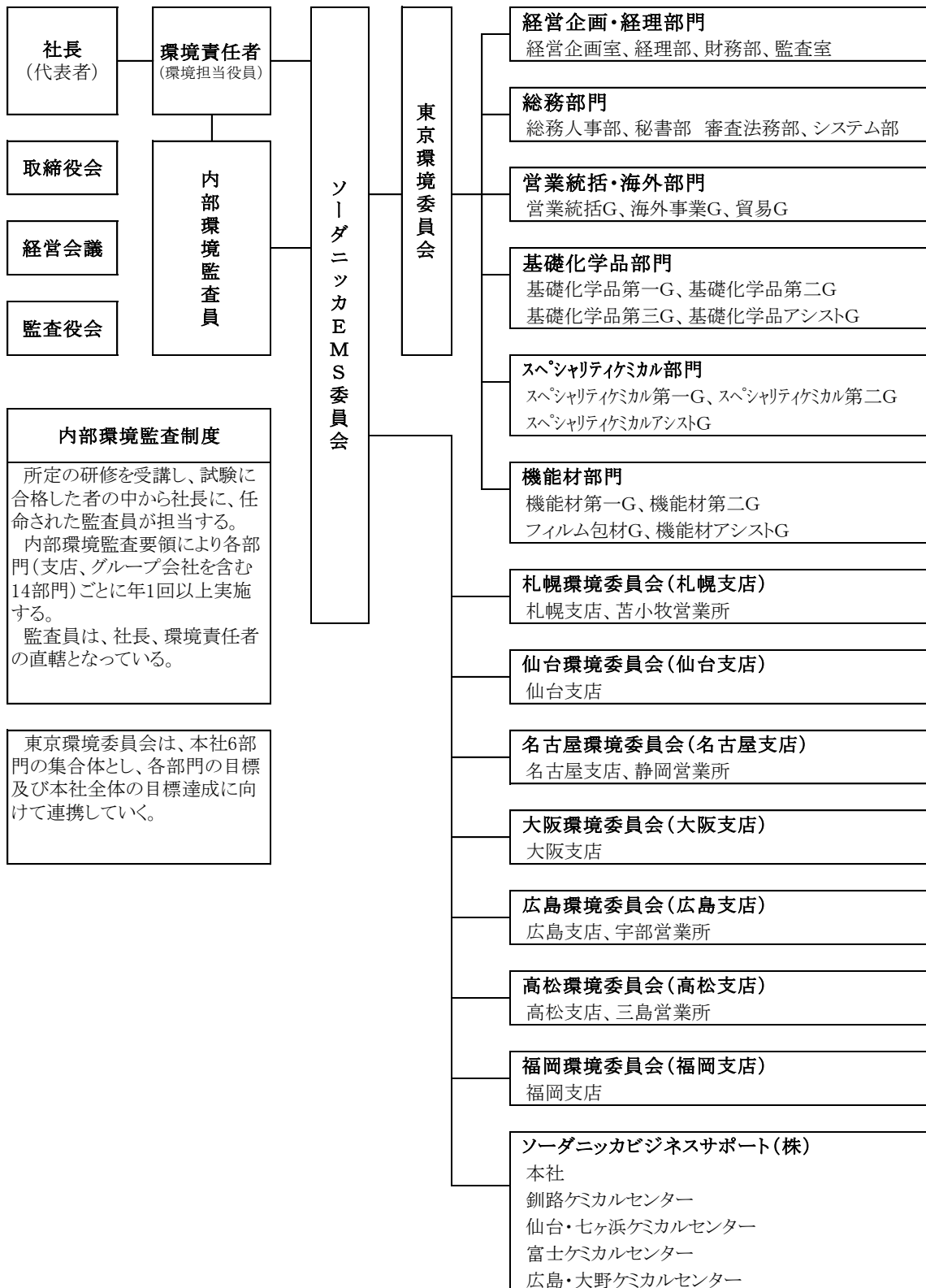
※2017 年度の役職員数はソーダニッカビジネスサポート(株)の人員を含む。

2011 年度～2016 年度まで単独売上高 2017 年度は連結売上高見込



4. 当社の環境管理組織

2017 年度(2017 年 4 月 1 日現在)※G：グループ



5. エコアクション 21 認証登録の対象範囲

◆事業規模(2017 年 4 月 1 日現在)

エコアクション 21 に係る従業員数：322 人

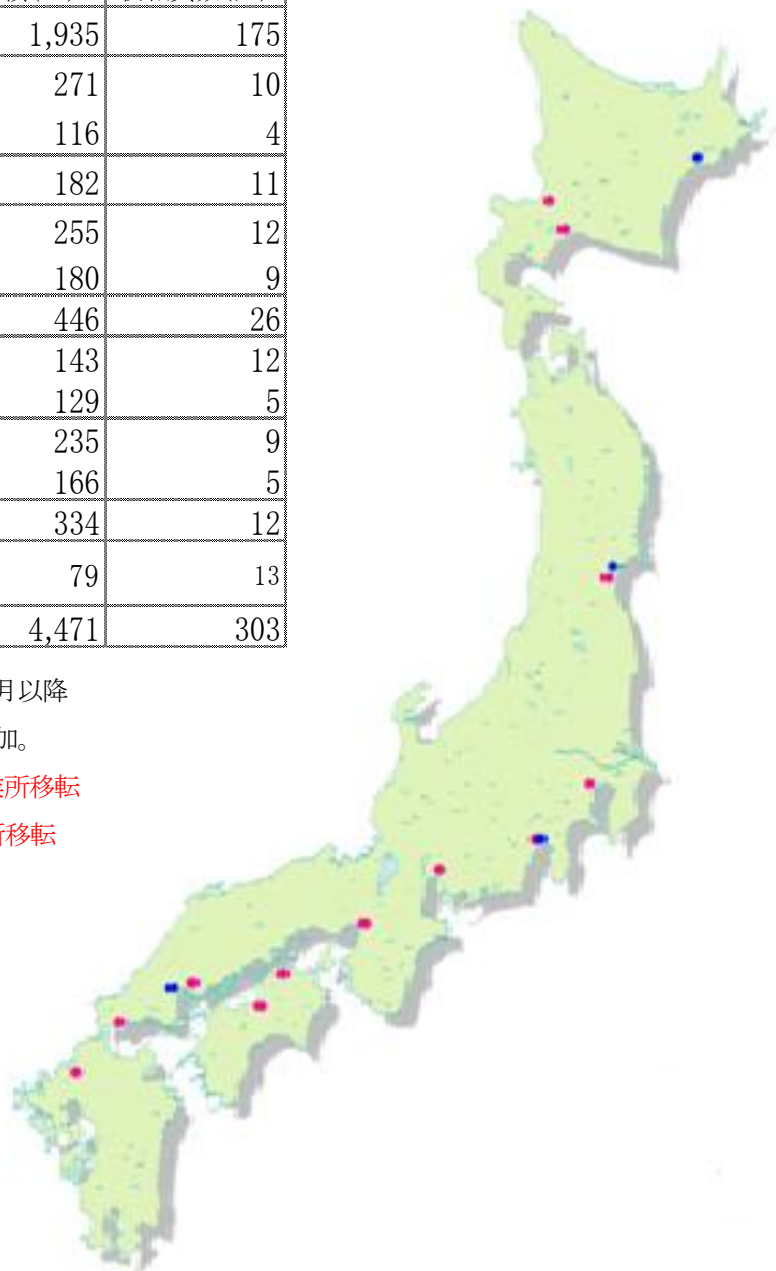
事務所(オフィス)	床面積(m ²)	役職員数(人)
本社(東京)	1,935	175
札幌支店	271	10
苫小牧営業所	116	4
仙台支店	182	11
名古屋支店	255	12
静岡営業所	180	9
大阪支店	446	26
広島支店	143	12
宇部営業所	129	5
高松支店	235	9
三島営業所	166	5
福岡支店	334	12
ソーダニッカビジネスサポート(株)	79	13
合計	4,471	303

※本社の面積は、2013 年 9 月以降
5F ワンフロア化により増加。

※2015 年 7 月 苫小牧営業所移転

※2015 年 12 月 静岡営業所移転

●は事務所(オフィス)
●はケミカルセンター



ケミカルセンター	事務所(m ²)	役職員数(人)	敷地(m ²)	倉庫(m ²)
釧路 ケミカルセンター	75	4	7,769	—
仙台・七ヶ浜 ケミカルセンター	127.16	6	10,040	1,011
富士 ケミカルセンター	204	3	4,483	723
広島・大野 ケミカルセンター	117	6	2,350	264
合計	523.16	19	24,642	1,998

6. 環境方針

企業理念に基づく環境経営基本方針

ソーダニッカは、化学品専門商社として日本の基礎産業である化学工業にたずさわっており、化学工業薬品、合成樹脂原料・製品、産業用機器類の販売を行っている。また、主力薬品については、安定供給策として保管業務も行っている。

これらの事業をグローバルに展開する企業として、企業理念に掲げる『信用を第一』に『社会に貢献する』企業でありつづけるために、地球環境保全への取組みをソーダニッカにおける最重要課題と位置づける。

環 境 方 針

ソーダニッカ株式会社は、企業経営を通じて地球環境へ配慮していくことを目的に、以下のことを実施していきます。

1. 事業活動を通じた地球環境保護への取組み

企業経営において環境負荷の低減に積極的且つ継続的に取り組んでいくために、自ら定めた目標に向かって全社員が自主的に行動する。また、営業活動においては環境負荷の少ない商品・技術・サービスを社会に提供するとともに、ケミカルセンターにおいては安全管理と環境保全に努めていきます。

2. 資源・エネルギーの効率的利用

資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を常に認識し、Reduce(廃棄物削減)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、新エネルギー等の活用、グリーン購入に取り組めます。

3. 環境関連法規の遵守

関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守します。

4. 継続的環境改善への取組み及び地域社会との共生

環境保全に関する目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境改善に取り組むとともに、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加していきます。

5. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めます。また、環境行動計画及びその実施状況並びに環境関連情報については『環境活動レポート』に取りまとめて公表します。

2012年5月2日

ソーダニッカ株式会社

代表取締役社長

長洲 崇彦

7. 環境目標(2017年度、2018年度)

※ソーダニッカビジネスサポート(株)本社の組入れについては今年度準備段階につき来年度より目標を設定し、組入れることとする。

1) 二酸化炭素排出量の削減

- ・全事業所より排出する二酸化炭素は、各事業所ごとに 2014 年度比で 2017 年度の目標を設定する。
- ・別途 2018 年度までの中期目標を設定する。

2) 紙使用量削減

- ・紙使用量(コピー、PC 出力用紙)は、各事業所ごとに 2014 年度比で 2017 年度の目標を設定する。用紙は、全事業所、全量環境配慮型製品とする。
- ・別途 2018 年度までの中期目標を設定する。

3) 廃棄物削減と分別回収

- ・排出する一般ゴミは、地域自治体等の回収区分により分別し、再資源化、廃棄物総量の削減に努める。
 - ①排出する紙資源は種類ごとに計量し、リサイクルに供する。
 - ②機密を含む長期保存書類は、100%リサイクルに供する。
 - ③プラスチック類は計量し、リサイクル可能なものは選別しリサイクルに供する。
- ・産業廃棄物は一般産業廃棄物と特別管理廃棄物に区分し、産業廃棄物管理票における管理(マニフェスト制度)に基づき、毎年 6 月までに産業廃棄物管理票交付等状況報告書を都道府県知事宛に提出する。

4) 節水と排水管理

- ①賃貸ビルにおいては、ビル管理会社等と協力して「節水」取組みを具体的に推進する。
- ②ケミカルセンターにおいては、製品希釈用水と生活水を区分して管理し、生活水については前年数量を上回らない。
- ③ケミカルセンターにおいては、水質汚濁防止法の特定施設に適用される基準を自主基準として管理し、排水量を把握する。

5) グリーン購入

- ・印刷物、事務用箋、封筒、名刺等は環境配慮型製品を使用し、それぞれその旨を明記する。

6) 化学物質の管理

- ・化学物質の取扱いにあたっては、社内規程に則った作業手順、保守管理基準、防災マニュアルにより安全と環境保全に努め、ケミカルセンターにおける災害発生を未然に防止する。
- ・P R T R 法の S D S 制度 対象化学物質(第一種、第二種指定化学物質)の年間販売量の把握に努める。

7) 営業部門の環境貢献活動

- ・営業活動を通して地球環境保全に貢献するために、化学分野における 3R 推進及び新エネルギー等の活用を積極的に提案するとともに、環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努める。また、その取組みについては環境活動レポートで公表する。

8) 地域の環境保全活動への参加

- ・当社は、事業所ごとにそれぞれの地域において環境保全に係るボランティア活動等に参加し、地域社会との共生を推進する。

8. 2016年度環境目標達成状況と中期環境目標への対応

取組み項目	基準	目標	実績	中期目標(対2014年度比)		2016年度達成状況	今後の対応
	2014年度	2016年度	2016年度	2017年度	2018年度		
	運用期間相当	運用期間相当	運用期間相当	運用期間相当	運用期間相当		
	2014年4月 ～2015年3月	2016年4月 ～2017年3月	2016年4月 ～2017年3月	2017年4月 ～2018年3月	2018年4月 ～2019年4月	取組み結果	2017年度
1 二酸化炭素 排出量の削減		+1.63%	+10.41%	+1.26%	+0.97%	×	二酸化炭素排出量の大半を占める、電力消費量の削減対策及び社用車の使用台数削減にて対応。
	510,136 kg-CO ₂	518,464 kg-CO ₂	563,238 kg-CO ₂	516,543 kg-CO ₂	515,077 kg-CO ₂	ケミカルセンター電力使用量増加及び化石燃料使用量増加。	
1.1 電力使用量の 削減		+2.68%	+6.21%	+2.26%	+1.93%	×	昼休み、退社後の消灯の徹底、オフィスフロア等の合理化、ケミカルセンターの旧設備更新等で対応。
	601,415 kWh	617,557kWh	638,737 kWh	615,027 kWh	613,003 kWh	ケミカルセンター4拠点分の電力使用量が増加。	
1.2 ガソリン、軽油 使用量の削減		-0.10%	+7.34%	-0.47%	-0.76%	×	社用車の使用台数の減少と公共交通機関の積極利用にて対応。
	43,855 L	43,810L	47,827 L	43,647 L	43,522 L	全社営業活動による社用車の使用量増加が主な要因。	
2. コピー使用量の 削減		±0.00%	+2.92%	-0.13%	-0.31%	×	・紙ベースでの資料配布、コピーの削減。 ・資料配布、コピー時に紙出力の必要の有無を事前に確認するとともに、データ参照と保管を促す。 ・集約・両面コピーの推進。 ・作成資料、報告書の1枚ベスト運動の推進。 ・全店会議、エコリーダー会議等での紙削減周知。
	9,456kg	9,456kg	9,732kg	9,444kg	9,427kg	支店の用紙使用量の増加。	
3. 1 廃棄物排出量の 削減※(紙+プラ)	(2015年度実績)	前年を越えないこと	-18.00%	前年を越えないこと	前年を越えないこと	○	取組み継続
	16,807 kg	16,807 kg	13,651 kg	13,651kg	13,651 kg	紙類の廃棄量(機密書類廃棄も含む)が大幅に減少。	
3. 2 廃棄物排出量の 削減 ※(産業廃棄物)	(2015年度実績)	前年を越えないこと	+30.60%	前年を越えないこと	前年を越えないこと	×	取組み継続
	46,400 kg	46,400 kg	60,600 kg	60,600 kg	60,600 kg	ケミカルセンターの設備変更に伴い、タンク内の残液処分等で、特別管理産業廃棄物排出量(廃酸、廃アルカリ等)が増加。	
4. 水道使用量の 削減(ケミカルセン ター生活水使用量)	(2015年度実績)	前年を越えないこと	-9.66%	前年を越えないこと	前年を越えないこと	○	取組み継続
	963 m ³	963 m ³	870 m ³	22,926 m ³	22,926 m ³	富士ケミカルセンターの生活水使用量が大幅に減少。	
5. ケミカルセンター 排水量の把握	(2015年度実績)	現状把握を行う。	-15.38%	現状把握を行う。			
	1,086 m ³		919 m ³				
6. グリーン購入 の拡大	グリーン調達ガイドラインに則り、環境配慮型製品を使用した。	購入率の把握に努める。			○	グリーン調達ガイドラインに則り、環境配慮型製品を使用した。	取組み継続
7. 化学物質の管理	1) 社内規程に則った作業手順、保守管理基準、防災マニュアルにより、安全と環境保全に努め、ケミカルセンターにおける災害発生を未然に防止する。 2) PRTR法のSDS制度 対象化学物質(第一種、第二種指定化学物質)の年間販売量の把握に努める。				印刷物、事務用箋、封筒、名刺などは環境配慮型製品を使用し、それぞれの旨を明記する。		
		ケミカルセンターは、毎月の安全会議・年1回の防災訓練で安全管理を行なった。本社及びケミカルセンターの関係者で、年1回の全国物流管理者会議を開催し、事故防止に努めた。	取組み継続				
8. 営業部門の 環境貢献活動	1) 3Rの推進及び新エネルギー等の活用を積極的に提案する。 2) 環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努める。 3) 取組み内容を環境活動レポートにて公表する。	購入率の把握に努める。			○	太陽光パネルの販売は減少に転じた。	太陽光パネル販売以外にも環境関連商材の積極的な展開を図っていく。
9. 地域の環境 保全活動	環境保全に係るボランティア活動等に参加し、地域社会との共生を推進する。				○		
10. その他の 環境活動	環境啓蒙活動の一環でエコ検定の受験を推奨する。	購入率の把握に努める。			○	エコ検定に5名合格した。	取組み継続
					全事業所で環境活動に参加した。		

二酸化炭素排出係数 2014年	北海道電力	東北電力	東京電力	中部電力
	0.683	0.571	0.505	0.497
	関西電力	中国電力	四国電力	九州電力
	0.531	0.706	0.676	0.584

注: 二酸化炭素排出係数は2014年度のものを使用しています。

※: 廃棄物排出量(紙、プラスチック)は当社で計量可能な紙類、プラスチックの排出数量及び、産業廃棄物管理票交付等状況報告書に基づく数値となります。

9. 2016 年度の環境活動

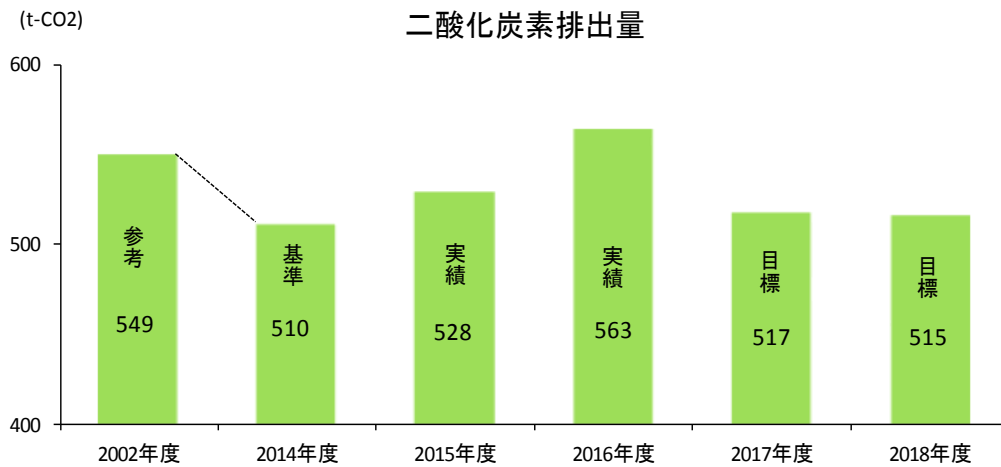
(1) 取組み実績結果

ソーダニッカビジネスサポート(株)本社については今年度準備段階につき、目標には含めない。

2016 年度 二酸化炭素排出量 = 事務所 + ケミカルセンター

- ・合計 563.3t-CO2 (+10.41% 2014 年度比)
- ・事務所 : 割合(61.3%) 345.3t-CO2 (+5.26% 2014 年度比)
- ・ケミカルセンター : 割合(38.7%) 218.0t-CO2 (+19.67% 2014 年度比)

実績分析：ケミカルセンター電力使用量増加及び化石燃料使用量増加。
(ガソリン、重油、灯油)



※2002 年度は当社が EMS 委員会を発足させ、EA21 認証登録に向けた作業を開始した年になります。

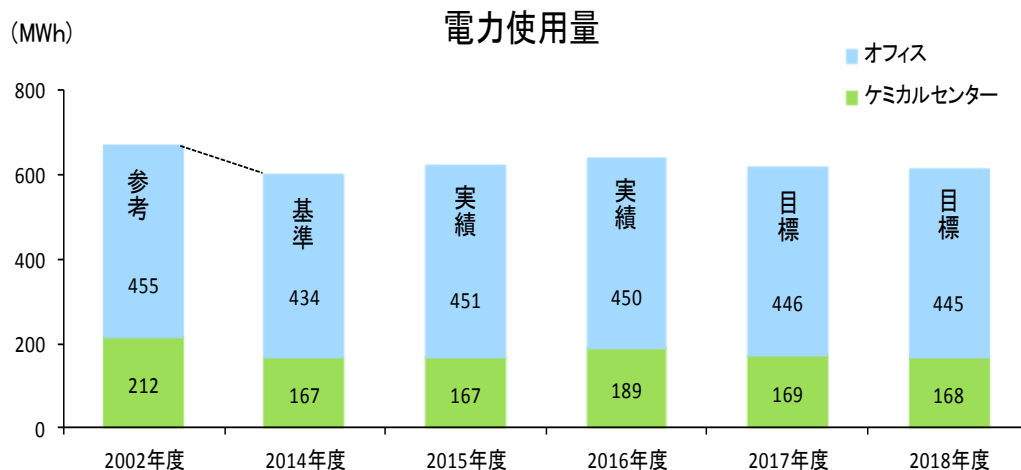
※電力：2014 年排出係数を使用。(2014 年度実績～2018 年度目標)

石油製品、LPG：「EA21 ガイドライン 2009 年版」記載の CO2 排出係数を使用。

2016 年度 電力使用量 = 事務所(オフィス) + ケミカルセンター

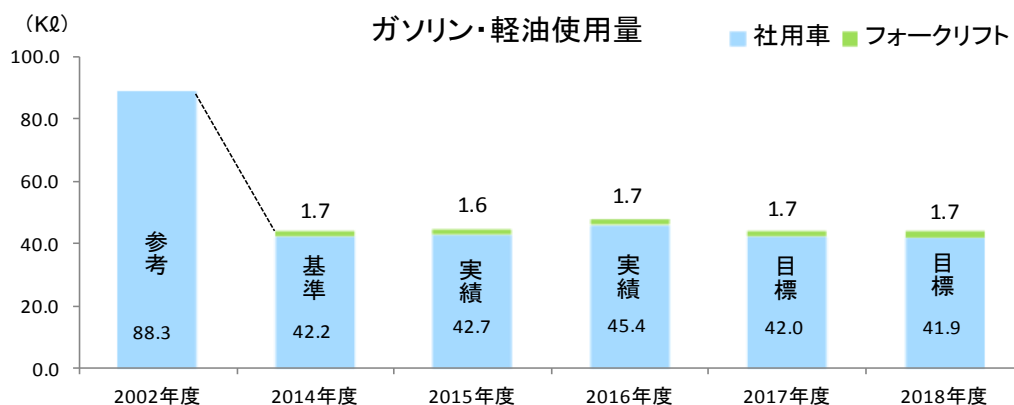
- ・合計 638.7 MWh (+6.21% 2014 年度比)
- ・事務所(オフィス) : 割合(70.4%) 449.7 MWh (+3.62% 2014 年度比)
- ・ケミカルセンター : 割合(29.6%) 189.0 MWh (+13.19% 2014 年度比)

実績分析：ケミカルセンター4 拠点分の電力使用量が増加。



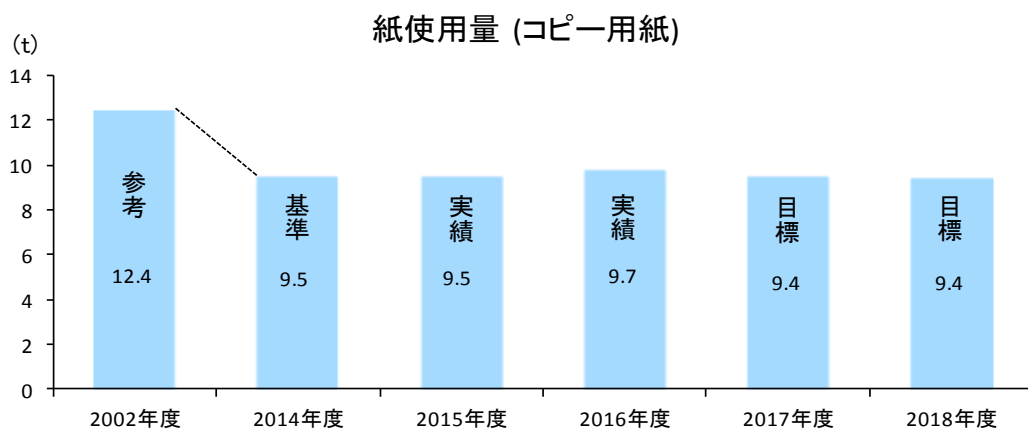
2016 年度 ガソリン・軽油使用量 = 社用車 + フォークリフト				
・合計		47,827ℓ	(+7.34%	2014 年度比)
・社用車	：割合 (96.5%)	45,411ℓ	(+7.66%	2014 年度比)
・フォークリフト	：割合 (3.5%)	1,665ℓ	(-0.60%	2014 年度比)

実績分析：全社営業活動による社用車の使用量増加が主な要因。



2016 年度 紙使用量(コピー用紙) 9,732kg(+2.92% 2014 年度比)

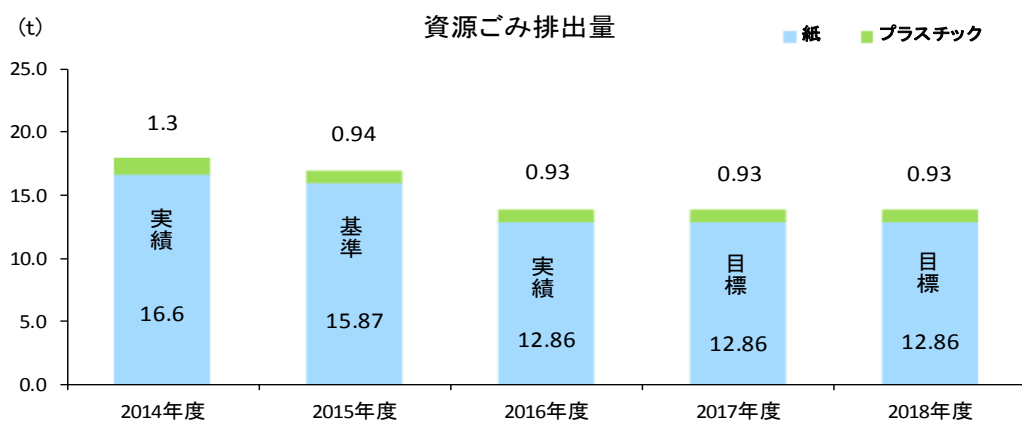
実績分析：支店の紙使用量の増加。



2016 年度 資源ごみ = 紙資源 + プラスチック

・合計		13.8t	(-18.00%	2015 年度比)
・紙資源	：割合 (93.3%)	12.9t	(-18.97%	2015 年度比)
・プラスチック	：割合 (6.7%)	0.9t	(-1.55%	2015 年度比)

実績分析：紙類の廃棄量(機密書類廃棄も含む)が大幅に減少。

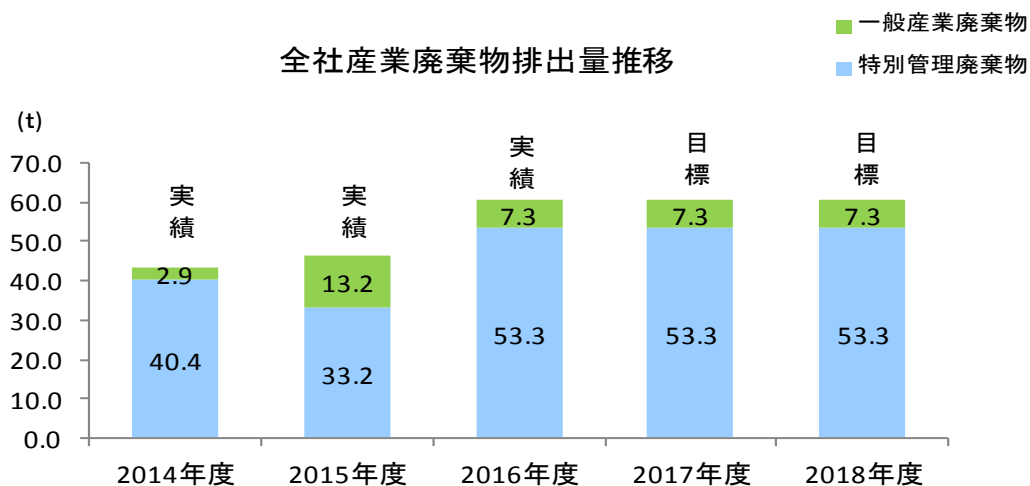


2016 年度 全社産業廃棄物排出量 = 一般産業廃棄物 + 特別管理廃棄物

・合計		60.6t	(+30.52% 2015 年度比)
・一般産業廃棄物	：割合(12.1%)	7.3t	(-44.57% 2015 年度比)
・特別管理廃棄物	：割合(87.9%)	53.3t	(+60.42% 2015 年度比)

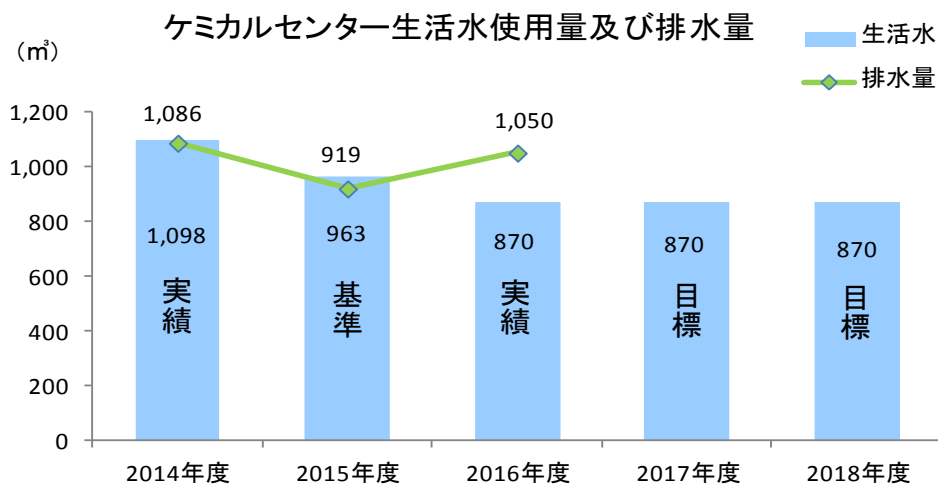
実績分析：当社保有ケミカルセンターの設備変更に伴い、タンク内の残液処分等で、
特別管理廃棄物排出量(廃酸、廃アルカリ等)が増加した。

※特別管理廃棄物：爆発性、毒性、感染性その他の人の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物。



2016 年度 水道使用量(ケミカルセンター生活水使用量)の削減及び排水量の把握

実績分析：富士ケミカルセンターの生活水の使用量が大幅に減少した。



(2)電力消費量の削減

太陽光発電設備

設置：2010年5月末日

場所：広島・大野ケミカルセンター(広島県廿日市市)

能力：4.59 kw

製品：ソーラーフロンティア(株)製 CIS系

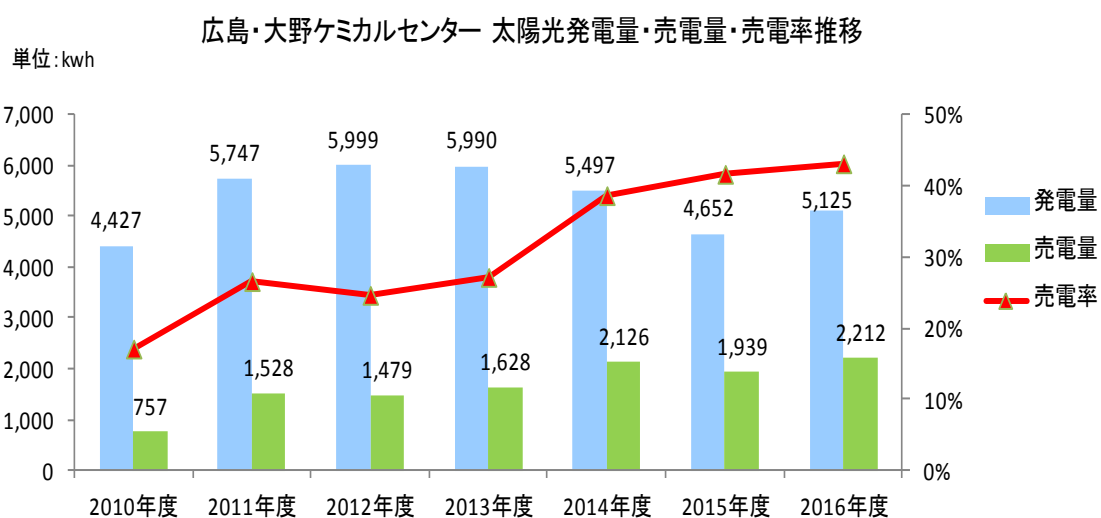
電力会社：中国電力(株)



2016年度 累計発電量：5,125 kwh(CO2換算量：3.6t-CO2)

累計売電量：2,212 kwh(CO2換算量：1.6t-CO2)

排出係数：2014年排出係数使用：0.706t-CO2/KWh(中国電力)



(3)廃棄物排出量の削減

エコキャップ回収(医療支援・障害者支援の寄付実施)

- ・提供先：NPO 法人 エコキャップ推進協会
- ・累積収集数：138,178 個(2017年7月8日現在)
- ・焼却した場合の CO2 発生量に換算すると、1,012kg になります
- ・提供したエコキャップは再生プラスチック原料として換金し、
医療支援や障がい者支援、子供たちへの環境教育等、様々な社会貢献にあてられます。

エコキャップ回収ボックス



回収したエコキャップ



(4)化学物質の管理

1) P R T R法のSDS制度 対象化学物質

2016 年度

・ P R T R法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」

(平成 11 年法律第 86 号)※化管法

・ SDS制度 対象化学物質：第一種 462 物質、第二種 100 物質

※「エコアクション 21 ガイドライン 2009 年版」による。

【結果】

- ・ 第一種指定化学物質：83 物質が対象(462 物質中)昨年度より 3 物質減
- ・ 第二種指定化学物質： 4 物質が対象(100 物質中)昨年度より 1 物質減
- ・ 販売量は公表しておりません。

2)ケミカルセンター(物流基地)取扱の化学物質

当社は毒劇物*1)の船受け可能な物流基地を全国 4 ヶ所(釧路、仙台七ヶ浜、富士、広島大野)に設置し、全国の物流ネットワークを構築しております。安全面に関しても構内や輸送上での事故防止のため、定期的な安全会議や防災訓練、全国物流管理者会議を実施して、安全管理教育の徹底を図っています。

*1)毒劇物：「毒物及び劇物取締法」で規制される毒性や腐食性が強い化学物質

ケミカルセンターで扱う主な化学品を紹介いたします。

一般家庭ではあまり馴染みがありませんが、産業界ではよく使用される薬品です。

<か性ソーダ>

無色の強アルカリ性液体です。食塩水を電気分解して製造される。

主な用途：化学繊維、製紙、パルプ、化学薬品、食品工業、石鹼

<塩 酸>

塩化水素の水溶液です。酸性が強く、多くの金属を溶解し、塩化物を作る。

主な用途：化学薬品、アミノ酸、グルタミン酸ソーダ、酸洗用

<硫 酸>

無色の酸性の液体です。

主な用途：肥料原料、化学繊維、化学薬品、金属製錬

3)ケミカルセンターの防災訓練

釧路ケミカルセンター

実施日 : 2016 年 9 月 29 日 出席者 : 9 名

訓練内容 : か性ソーダの漏洩事故への対処

①訓練打合せ

②漏洩箇所を土嚢で覆う作業



仙台・七ヶ浜ケミカルセンター

実施日 : 2016 年 10 月 27 日 出席者 : 9 名

訓練内容 : 48%か性ソーダ積込時の飛散、納入時の漏洩対応

①薬品のかかった衣服を脱ぐ

②中和剤散布作業



富士ケミカルセンター

実施日 : 2016 年 10 月 18 日 出席者 : 12 名

訓練内容 : 積込場での薬品の漏洩、流出事故を想定。

砂に薬品を吸着させ、漏洩防止。

①薬品吸着作業

②集合写真



広島・大野ケミカルセンター

実施日 : 2016 年 11 月 22 日 出席者 : 19 名

訓練内容 : 実証実験 : 濃硫酸の腐蝕性、中和、水との反応。薬品漏洩を発見した場合の緊急措置、漏洩の拡散防止及び回収作業

①薬品の実証実験

②実験用ビーカー

③漏洩防止作業の実施



(5) 営業部門の環境貢献活動

1) 太陽光発電パネルの販売取組み

《販売製品》ソーラーフロンティア株式会社 製 CIS 太陽電池モジュール

《特徴》

- ①高温・影に強く「実発電量(kWh/kW; 設置システム規模あたりの発電量)」が高い。
- ②国内一貫生産の安心品質。宮崎工場に続き、東北工場も稼動開始。
- ③国内メーカー最長クラスの出力保証 20 年間を標準装備。

販売取組みの推移

2009 年度 販売取組み開始

2010 年度 5 月に広島・大野ケミカルセンターに実証用 4.59kw の太陽光発電パネルを設置。

2011 年度 販売強化、実績化進展。

2012 年度 第 3 四半期より販売が本格化。

2013 年度 発電事業者の旺盛な需要により販売量増加。

2014 年度 前年度より販売総容量は減少。引続き買取制度の効果により多数成約。

2015 年度 販売総容量は前年度とほぼ同等の案件が成約(期間:2015 年 4 月~2016 年 3 月)。

2016 年度 優遇されていた産業用買取価格が改変され 24 円/kw となった。

2017 年度 産業用買取価格が 10kw 以上、2,000kw 未満が 21 円/kw、2,000kw 以上が入札制度により決定されることとなった。他の環境関連商品の販売を展開中。

産業用買取価格の推移(20 年固定、消費税別、パネル出力: 10kw 以上)

- ・ 2012 年度: 40 円/kw
- ・ 2013 年度: 36 円/kw
- ・ 2014 年度: 32 円/kw
- ・ 2015 年度(4 月~6 月): 32 円/kw
- ・ 2015 年度(7 月~3 月): 27 円/kw
- ・ 2016 年度: 24 円/kw
- ・ 2017 年度: 21 円/(10kw 以上、2,000kw 未満)
- ・ 2017 年度: 2,000kw 以上 入札制度により価格決定

買取価格・期間等(参考): 経済産業省 資源エネルギー庁 ホームページ

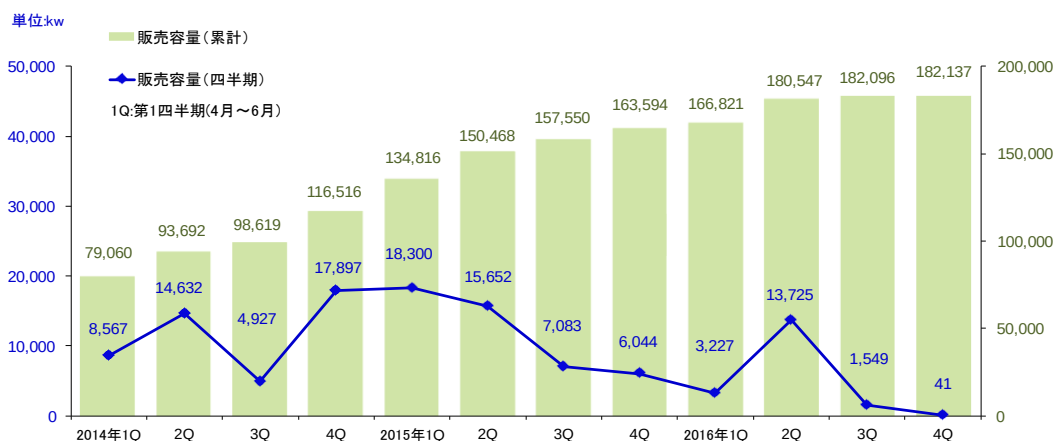
URL http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/fit_kakaku.html

2016 年度実績例

- ・ 施主様 : 松屋電工株式会社
- ・ 引渡し月 : 2016 年 8 月
- ・ 納入月 : 2016 年 8 月
- ・ 場 所 : 静岡県 御殿場市
- ・ 設置容量 : 68 kw (SF170-S × 400 枚)
- ・ 施工会社 : 三菱重工冷熱株式会社



四半期別 太陽光発電パネル販売容量推移



2) 環境関連商品の販売取組み

主な取組みは以下の通りです。

- a) 環境への効果 b) 商品名他 c) 提案概要等

① 副生品の有効利用



* 副生品ストックポイント



- a) 廃棄物、CO2 削減
- b) 副生品分離／濃縮装置
- c) ・ 廃棄物削減 ・ 副生品再使用による純正品の使用量削減
- ・ 廃棄用中和剤の削減 ・ 純正品納入の帰り便を活用しての副生品引取
- * 副生品の利用例 : 塩化アルミ、硫酸バンド、硝酸アルミ他

②プラスチック製の折りたたみコンテナ



- a) リユース・CO2 削減 b) コンボライフ
- c) ・災害時の飲料水等供給(内袋の再使用可)
 - ・食品、飲料、化粧品、洗剤、ケミカル製品等の輸送、保管において金属製品と比較し軽量化、減容が図れる為、輸送効率化による省エネ

③蒸気漏れ防止部品



- a) CO2 削減 b) スチーム Z
- c) 蒸気管中の凝縮水排水時の蒸気漏れ防止

④潤滑油の再生装置



- a) 廃棄物削減 b) 静電浄油機
- c) ・潤滑油の酸化変質物、水分の除去による可使用期間延長
 - ・機器への酸化変質物の付着防止による可使用時間延長

⑤大気汚染防止装置



- a) 大気汚染防止
- b) テクセルスクラバー
- c) 排ガス処理

⑥その他

- ・輸送ロットアップによる CO2 削減(合理化・効率化)
 - 缶 → ドラム、ドラム→タンクローリー
 - タンクローリー → トレーラー・ISO コンテナ等
- ・高強度ドラム缶(薄肉化) ・高強度フィルム(薄肉化) ・排水処理薬品
- ・再生溶剤 ・VOC 低減溶剤 ・温暖化防止溶剤 ・オゾン層保護溶剤
- ・ECO ゴミ袋

商品に関するお問合せはお客様担当者、又は以下にご連絡をお願い申し上げます。
当該担当部署の担当者を紹介させていただきます。

お問合せ先 : ソーダニッカ 株式会社
ソーダニッカ EMS 委員会 : 高橋 誠(環境担当者)
電話: 03-3245-1802 FAX: 03-3241-3709
〒103-8322
東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント
E-mail : mk-takahashi@sodanikka.co.jp

(6) 地域の環境保全活動(2016 年度)
各事業所の環境保全活動への参加

①本社：2016 年 5 月 29 日
ごみゼロクリーンデー



②札幌支店：2016 年 6 月 12 日
ラブアース・クリーアップ i n 北海道



③仙台支店：2016 年 9 月 24 日
第 22 回 広瀬川 1 万人プロジェクト



④静岡営業所：2016 年 7 月 15 日
事務所周辺ごみ拾い



⑤大阪支店：2016 年 10 月 24 日
大阪マラソンクリーンUP 作戦



⑥広島支店：2016 年 6 月 6 日
ごみゼロクリーンウォーク



⑦宇部営業所：2016 年 6 月 12 日
リフレッシュ瀬戸内海岸清掃活動



⑧高松支店：2017 年 3 月 2 日
高松中央通り一斉清掃



⑨三島営業所：2016年7月4日
四国中央市 クリーンデー

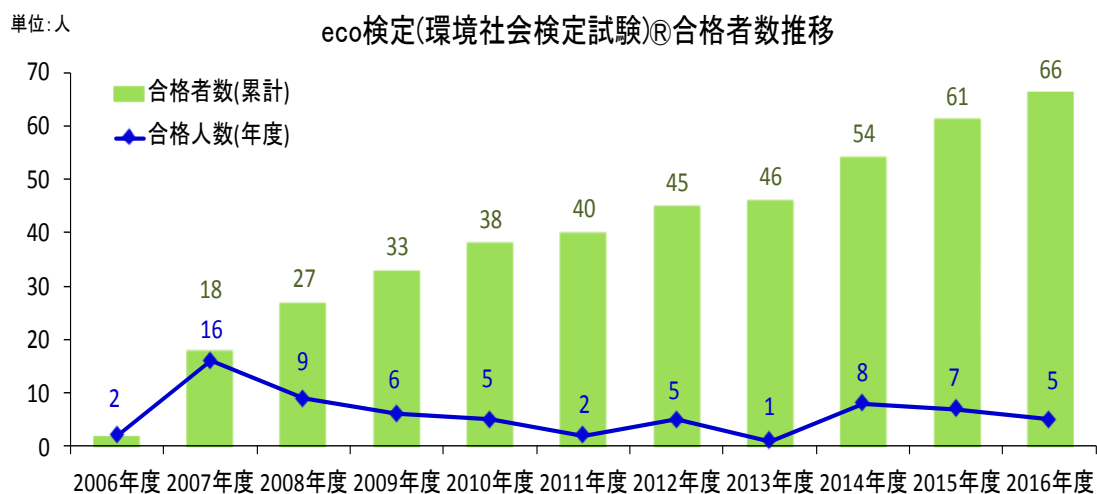


⑩福岡支店：2016年5月17日
ラブアース・クリーンアップ 2016



(7) その他の環境活動(eco 検定®の受験)

当社は、第1回試験(2006年10月15日)より66名の合格者を輩出しています。



2016年度の合格者(5名)の紹介

①本社：和田社員

受かるか不安でしたが無事

エコ・ピープルになりました！

②本社：青木社員

二回目でしたので無事

受かってホッとしました。

③本社：松井社員

エコ・ピープルとして

自覚を持った行動を

心掛けていきます。



④広島支店：今田社員

エコへの意識が少し
変わって良かったです。



⑤広島支店：山下社員

勉強する前に片付けるので、
かなり部屋がきれいになりました。



2017 年度も eco 検定®の合格に向け、邁進していきます。



※eco 検定（環境社会検定試験）®は
東京商工会議所の登録商標です。

(8) 環境経営マニュアルの主な変更点(2017 年度版)

- ①組織変更に伴い、業務担当を営業統括・海外部門から総務部門へ移管。
仕入担当を営業統括・海外部門から経営企画・経理部門へ移管。
- ②ソーダニッカビジネスサポート(株)が新たにソーダニッカ(株)の EA21 に参画。
- ③ソーダニッカビジネスサポート(株)部門を新設。
- ④ケミカルセンターはソーダニッカビジネスサポート(株)部門に移管。
- ⑤「環境への負荷の自己チェック(取りまとめ表)」を新たに追加。
- ⑥「関係する法律等の要求事項遵守状況チェックリスト」へ家電リサイクル法、フロン
排出抑制法を追加。

10. 環境関連法規等の遵守状況(過去3年)

「環境関連法規」については、「ecoBRAIN」*1で法律の改訂内容を確認し「法令遵守状況チェックリスト」を更新し、各部門は6月に遵守状況を確認しました。

(*1:「ecoBRAIN」第一法規(株)の「ネット環境法令管理システム」)

【違反等】 行政当局等からの指導、苦情及び訴訟はありませんでした。

【主に当社に該当する環境法令集】 ※新規に追加した法令は赤字で表示

<ケミカルセンター関係>

<目的>

[大気汚染防止法]	ばい煙の発生
[水質汚濁防止法]	有害物質の排出、浸透防止、漏洩事故時の報告
[廃棄物処理法]	廃棄物の処理
[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保、化学物質の取扱い
[消防法]	建物防災、危険物の保管管理、消防活動阻害物質管理
[毒物劇物取締法]	毒物劇物の製造・保管管理、安全輸送
[海洋汚染防止法]	船受入時汚染防止、有害物質貯蔵設備の管理

<営業関係>

[毒物劇物取締法]	毒物劇物の輸送・販売
[高压ガス保安法]	高压ガスの輸送・販売
[消防法]	危険物の輸送
[化管法](P R T R法)	S D S(安全データシート)の配布
[化審法]	新規物質の販売
[容器包装リサイクル法]	フィルム、包装容器のリサイクル(当社非該当)

<輸入関係>

[毒物劇物取締法]	毒物劇物輸送時の安全・標記
[化審法]	一般化学物質等の輸入数量の把握・報告

<総務関係>

[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保
[健康増進法]	事務所内分煙

<全社関係>

[家電リサイクル法]	備品のリサイクル
[小型家電リサイクル法]	〃
[フロン排出抑制法]	事業用のエアコンの点検

1 1. 代表者による全体の評価と見直し

「社長による全体の評価」

環境経営マニュアル、環境活動レポートを見直し、環境会議で周知、内部環境監査で教育・指導を行う。なお環境目標の評価についてはソーダニッカ EMS 委員会及び来年度期末終了後に行う。

「環境負荷の取組み状況」

いずれの項目も削減が困難な状況。全体目標数値は 2014 年度を基準として設定した。実態把握と実現可能な目標とする為、試算にあたり各部門で目標を定めた。

「社長指示」

①環境負荷の取組み

全体としてプラスになるものは止むを得ないが、個々に更なる削減可能なものは取組んでください。

②審査人からの助言対応

対応可能なものは全て環境経営マニュアルを中心に内容を折りこみ取組んでください。又、事務局で見直しが必要と考えるものは取り入れてください。大切なことは周知と教育です。適切に運用するようお願いします。

内部環境監査員は監査実務に支障がない範囲で新任管理職を中心に任命して下さい。EA 取組みに対する自身の教育とフレッシュな知識で部下を教育していくことを期待しています。

③実施体制

新組織に対応することと、効率的な運用が図れるよう、部門を見直してください。

④環境関連法規の遵守

法令のチェック漏れがないよう留意してください。又、法令違反がないよう管理、指導を行ってください。

12. エコアクションの取組みの経緯

当社が2006年3月にエコアクション21に全社認証登録されてから12年目を迎えました。

《当社の取組みの歴史》

2002年	5月	EMS 準備委員会発足
2003年	8月	パイロット事業に本社参加
2004年	10月	本社 認証取得
2006年	3月	全社統合 認証取得
2016年	3月	全社統合 認証更新(更新審査)
2017年	3月	中間審査の実施(2年に1度)

13. 表紙の写真について

昨年は「生物多様性」※₁をテーマに「ブタクサ」と「葛(クズ)」を取りあげました。

今年度もテーマを踏襲し、新聞等で話題となっているバラスト水※₂により生態系に影響をあたえている「ムラサキ貝」と「ワカメ」を取りあげました。バラスト水に含まれている水生生物が外来種として生態系に与える影響から、国際条約による規制がすすめられています。

「ムラサキ貝(ムール貝)」はヨーロッパ原産ですが繁殖力が強いことから世界中に分布を広げています。小職が過去、発電所において熱交換機に大量発生しているのを見たことがありました。工業的には熱交換効率の問題があり除去していると聞きました。

「ワカメ」は日本の沿岸に生息しますが、オセアニア地域で増殖し在来種の海藻の生育を阻害し、生態系に影響が現れた地域もあるそうです。

いずれも「食」の観点から見ると利用価値があるとも思えますが「生態系」から見ると大きな問題です。世界的に外航船にバラスト水処理装置を装備する義務化がスタートします。

※1：「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」があります。これらを世界的に保全していく活動の為に1992年に「生物多様性条約」がつくられ、翌年に日本は条約を締結し世界では193カ国が加盟しております。この保全とは、様々な生物が相互の関係を保ちながら、本来の生息環境の中で繁殖を続けている状態を意味するようです。

※2：船舶のバラスト(ballast 船底に積む重し)として用いられる水のこと。

貨物船が空荷で出航するときに港の海水が積み込まれ、貨物を積載するときに港で船外へ排出される。

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第1版	2017年8月31日	初版発行
第2版	2018年2月13日	表紙、P.7、P.17、P.21の項目を一部改訂。 P.19-20 エコ検定の表記の変更：エコ検定 → eco 検定®



このレポートはグリーン購入適合紙及び PEFC 森林認証紙を使用し、作成しています。
画像を及び写真は全て無断転用不可。